

# Association of severe hypoglycemia with depressive symptoms in patients with type 2 diabetes: the Fukuoka Diabetes Registry

菊池, 洋平

<https://doi.org/10.15017/1654721>

---

出版情報：九州大学, 2015, 博士（医学）, 課程博士  
バージョン：  
権利関係：全文ファイル公表済



(別紙様式2)

氏名	菊池 洋平			
論文名	Association of severe hypoglycemia with depressive symptoms in patients with type 2 diabetes: the Fukuoka Diabetes Registry			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	神庭 重信
	副査	九州大学	教授	須藤 信行
	副査	九州大学	教授	馬場園 明

## 論文審査の結果の要旨

### 要旨

【目的】欧米でのうつ症状を有する糖尿病患者の臨床的特徴は多くの研究で調査されているが、他民族に関する情報は限定されている。著者らは日本人の2型糖尿病患者の臨床的特徴とうつ症状との関連を検討した。

【方法】抗うつ薬を内服していない日本人2型糖尿病患者4218人をCES-Dスコアで4群に分けた。うつ症状の重症度と臨床的特徴を断面的に検討した。

【結果】多変量調整後、うつ症状の重症度はBMI、余暇身体活動量、喫煙、睡眠時間、ショ糖摂取量、朝食抜き、インスリン療法、重症低血糖、両足のしびれ、足潰瘍の既往、光凝固術の既往、虚血性心臓病の既往、脳卒中の既往と有意な関連があった。2756人のSU薬または/およびインスリン治療の患者では性、年齢、糖尿病罹病期間、HbA1c、インスリン治療、血糖自己測定、余暇身体活動量、朝食抜き、両足のしびれ、虚血性心臓病の既往、脳卒中の既往を含めた多変量調整後も重症低血糖のオッズ比はCES-Dスコアとともに有意に増加した (CES-Dスコア $\leq$ 9 referent, スコア10-15 OR 1.64 ; スコア16-23 OR 2.09 ; スコア24以上 OR 3.66 (傾向性  $p < 0.01$ )

【結論】重症低血糖は日本人2型糖尿病患者の血糖コントロールやインスリン治療、生活習慣因子、糖尿病合併症と独立してうつ症状の重症度と正の相関があった。重症低血糖とうつ症状はともに糖尿病患者の重症化や死亡率の危険因子であることが知られていることから、臨床医はこの関連性について十分留意すべきである。

以上の結果は、この方面の研究に新たな知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験は、まず論文の研究目的、方法、研究結果などについて、説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容およびこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。よって、調査委員合議の結果、試験は合格とした。